



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：中東和平をめぐる最近の動き

米国のケリー国務長官は、2013年3月末から活発な外交活動を開始した。ケリー国務長官は、イスラエルを3月に2回、4月の1回訪問し、ネタニヤフ首相とは3回会談している。同長官は、中東和平を担当するリブニ司法相とは5月初旬にワシントンとローマで2回会談した。パレスチナのアッバース大統領とケリー国務長官は、3月以降、すでに4回会談している。しかし、交渉ではまだ具体的な動きはない。

他方、中東和平をめぐるのは、4月末から、断片的だがいくつかの動きが出ている。

- ・4月30日、米国を訪問したアラブ連盟の代表団はケリー国務長官らと会談し、中東和平問題を協議した。代表団のメンバーであるカタールのハマド首相は、イスラエルとパレスチナが合意する国境について、2002年に採択した和平イニシアチブで示した条件を緩和し、67年境界線を基本に、両国が合意した修正案に応じる姿勢を見せた。イスラエルのリブニ外相は、同決定を歓迎した。
- ・5月7日、イスラエル軍放送は、ネタニヤフ首相が、西岸でのユダヤ人入植地の住宅の新規入札を凍結するようアリエル住宅建設相に指示したと報道した。ハアレツ紙は、同首相はケリー国務長官に6月まで新規建設の凍結を約束したと報道した。
- ・5月8日、米国のオバマ大統領は、中国を訪問しているネタニヤフ首相と電話会談し、地域情勢と中東和平問題を協議した。オバマ大統領がネタニヤフ首相と電話会談したのは、3月のイスラエル訪問後、初めてである。
- ・5月9日、イスラエル政府高官は、パレスチナとの交渉が6月にも再開されると述べたと報道された。同高官は、イスラエルは米国に、イスラエルができることのリストを渡しており、パレスチナ側の反応を待つとした。

こうした一連の動きは、外交の裏舞台で何らかの動きがあることを示唆しているのか、今の時点でははっきりしない。3月下旬にオバマ大統領がイスラエルを訪問し、その後ケリー国務長官が中東和平関係諸国の歴訪を開始した際には、米国は3カ月ないし半年をかけて信頼醸成に努めると報道された。4月17日にケリー国務長官が上院外交委員会で証言した際にも、具体的な動きには言及していない。

パレスチナ側の動きでは、3月に辞任したファイヤード首相の後任首相がまだ決まっていない。4月21日、トルコでアッバース大統領と会談したケリー国務長官は、ファイヤード首相は、あと35日間、暫定首相を務めると述べている。4月末、アッバース大統領は、融和内閣の組閣に関する大統領令及び選挙の時期を定める大統領令を同時に発出するため、パレスチナ諸派に協力を求めた。

(中島主席研究員)